

3-8 災害

- 過去の開発圧力により、斜面地やハザード区域に指定された区域においても、一部で市街化が進んでいます。
- 市街地後背域に斜面地が存在し、「土砂災害警戒区域」等の指定箇所があります。また、二級河川では「浸水想定区域」の指定箇所もあります。
- ※災害リスクについては、「第8章～防災指針に関する事項～」にて詳細に分析します。

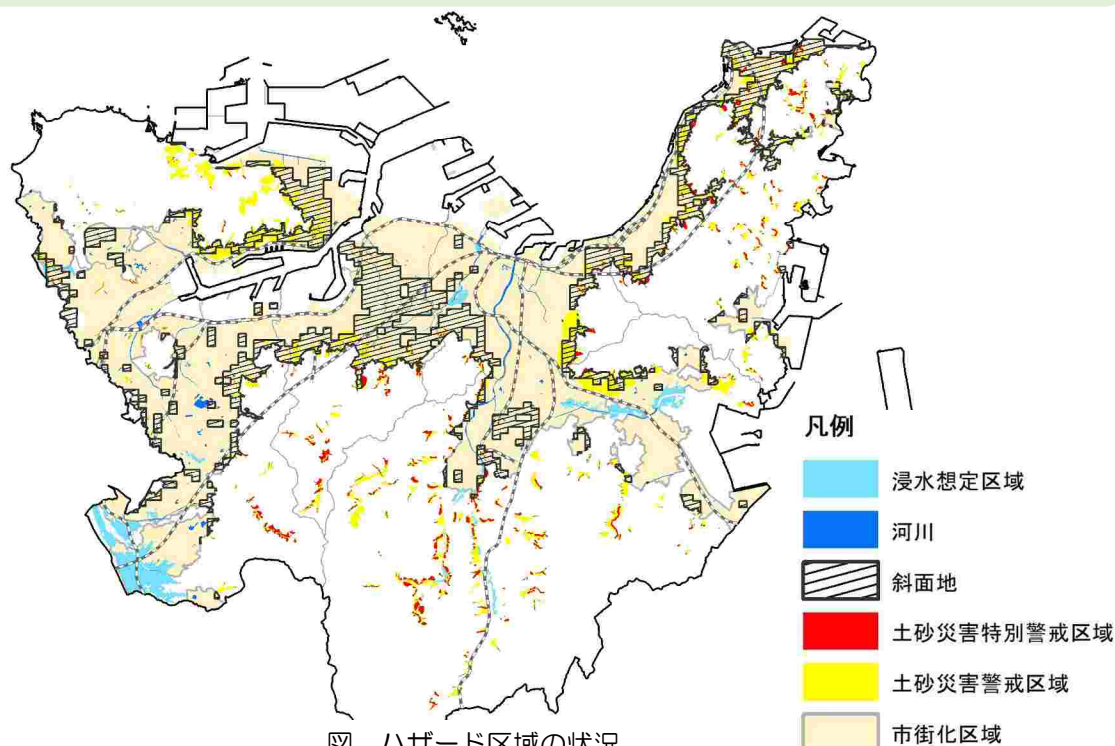


図 ハザード区域の状況

出典：斜面地は、「国土数値情報（標高傾斜度5次メッシュ（平成23年））」データによる平均傾斜角度5度以上メッシュ地域
土砂災害警戒区域等は、福岡県「土砂災害警戒区域等」、浸水想定区域は、国土交通省または福岡県「浸水想定区域」

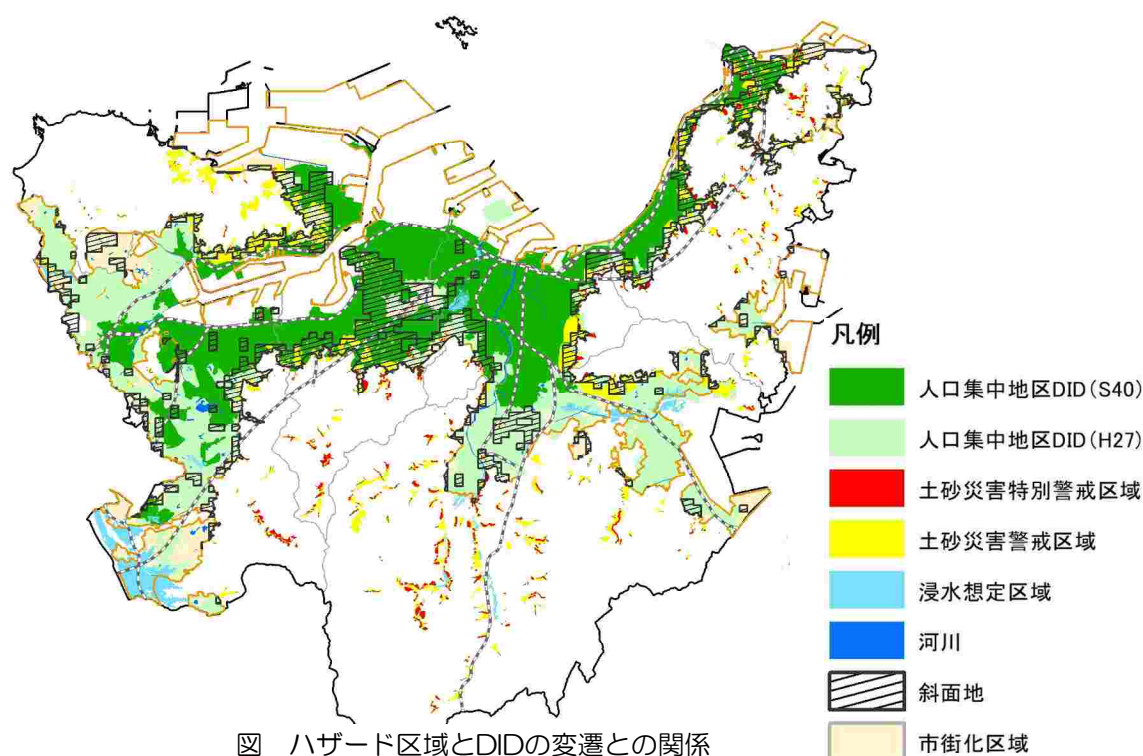


図 ハザード区域とDIDの変遷との関係

出典：斜面地は、「国土数値情報（標高傾斜度5次メッシュ（平成23年））」データによる平均傾斜角度5度以上メッシュ地域
土砂災害警戒区域等は、福岡県「土砂災害警戒区域等」、浸水想定区域は、国土交通省または福岡県「浸水想定区域」

3-9 人口密度低下による影響

(1) 公共交通

○人口密度の低い地域では、公共交通のサービス水準の低下が懸念されます。高齢化が高い地域を必ずしも公共交通がカバーされず、高齢者の外出機会の低下も懸念されます。

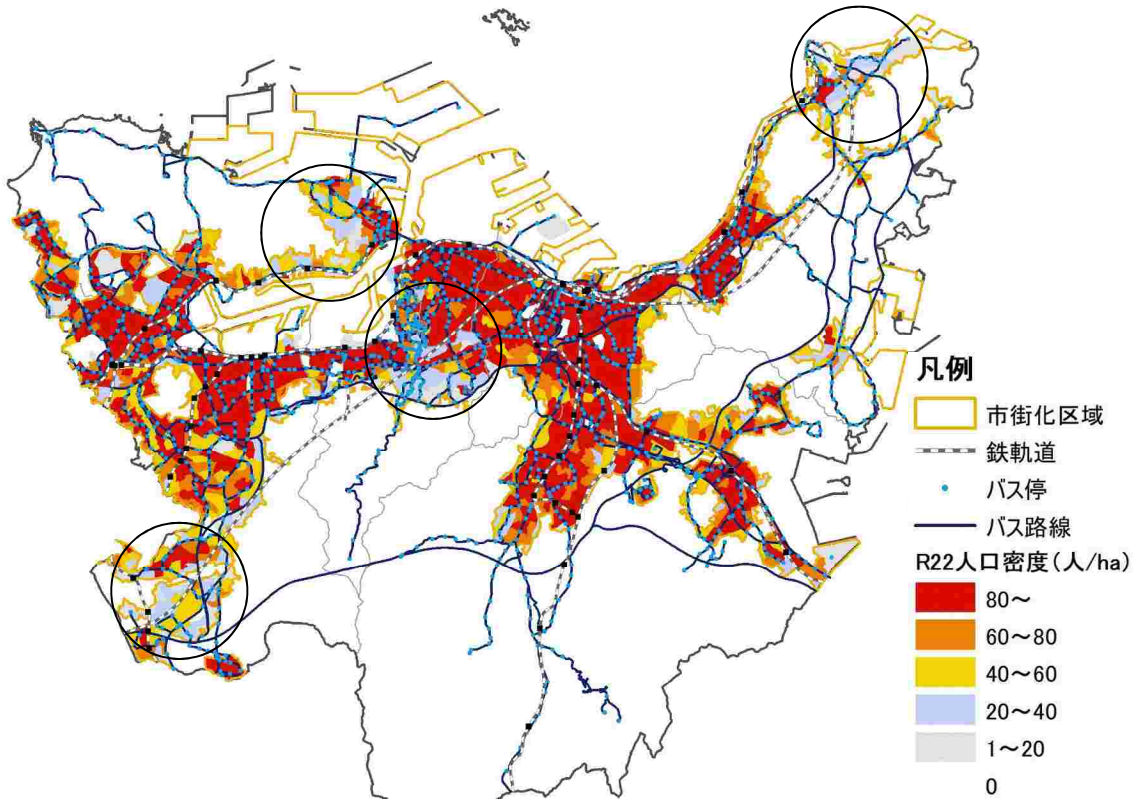


図 令和22年（2040年）人口密度と公共交通路線網との関係

出典：北九州市「都市計画基礎調査（平成 28, 29 年）」

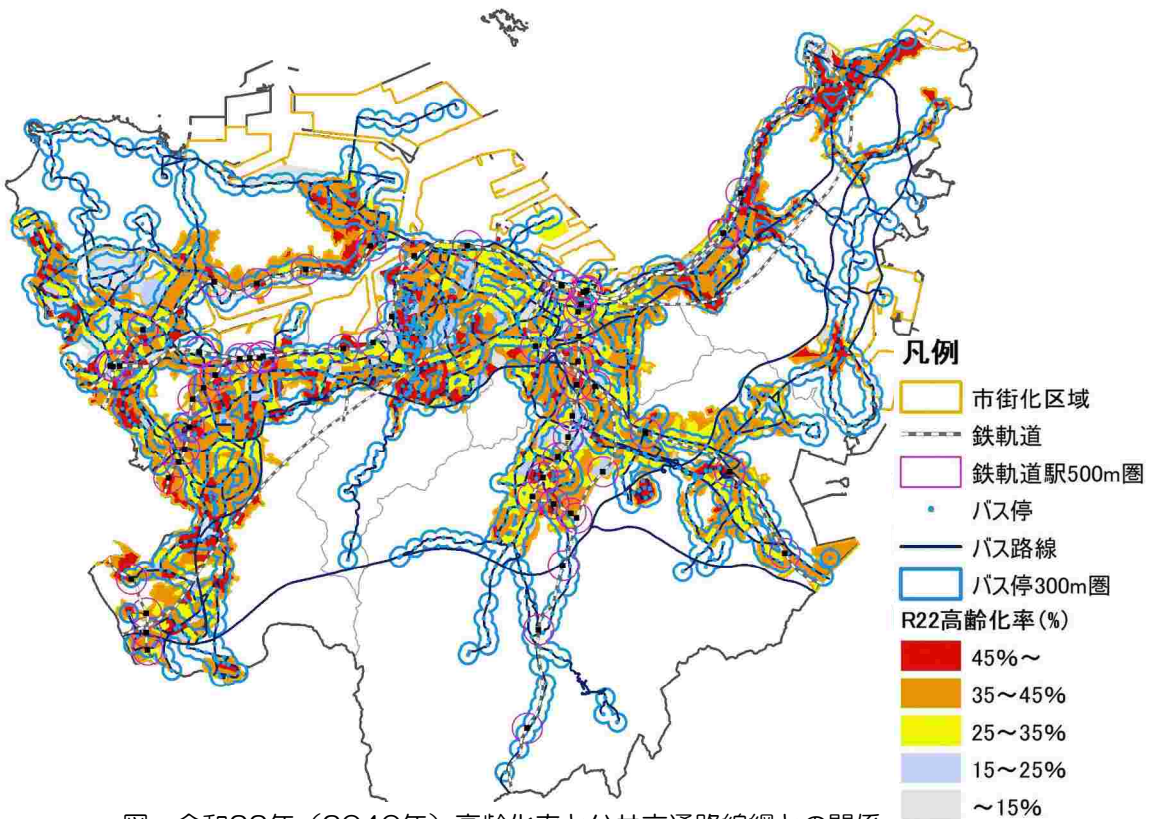


図 令和22年（2040年）高齢化率と公共交通路線網との関係

出典：北九州市「都市計画基礎調査（平成 28, 29 年）」

(2) 生活サービス施設

○今後、身近な商業施設（食品スーパー・総合スーパー）の利用圏人口が減少し、施設の存続が困難となれば、いわゆる”買い物弱者”の増加も懸念されます。

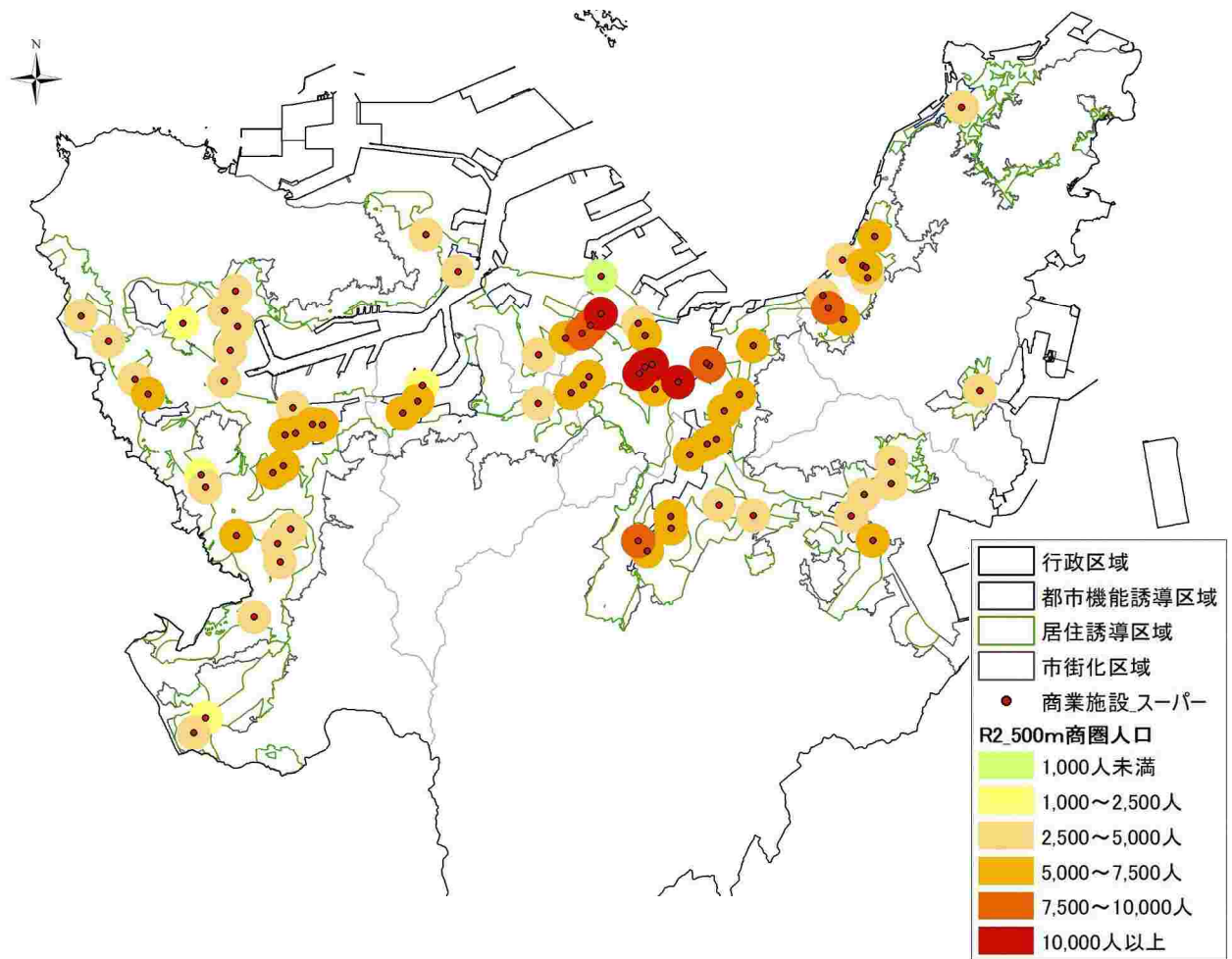


図 身近な商業施設（食品スーパー・総合スーパー）の立地と500m商圏人口（令和2年）

（※食品スーパー・総合スーパー：延床面積1,000～10,000㎡未満）

出典：北九州市「都市計画基礎調査（令和2年）」 集客施設立地現況

○また、身近な医療施設や老人福祉施設周辺の人口密度の減少も大きく、施設の存続が困難となれば同様にサービス水準の低下が懸念されます。

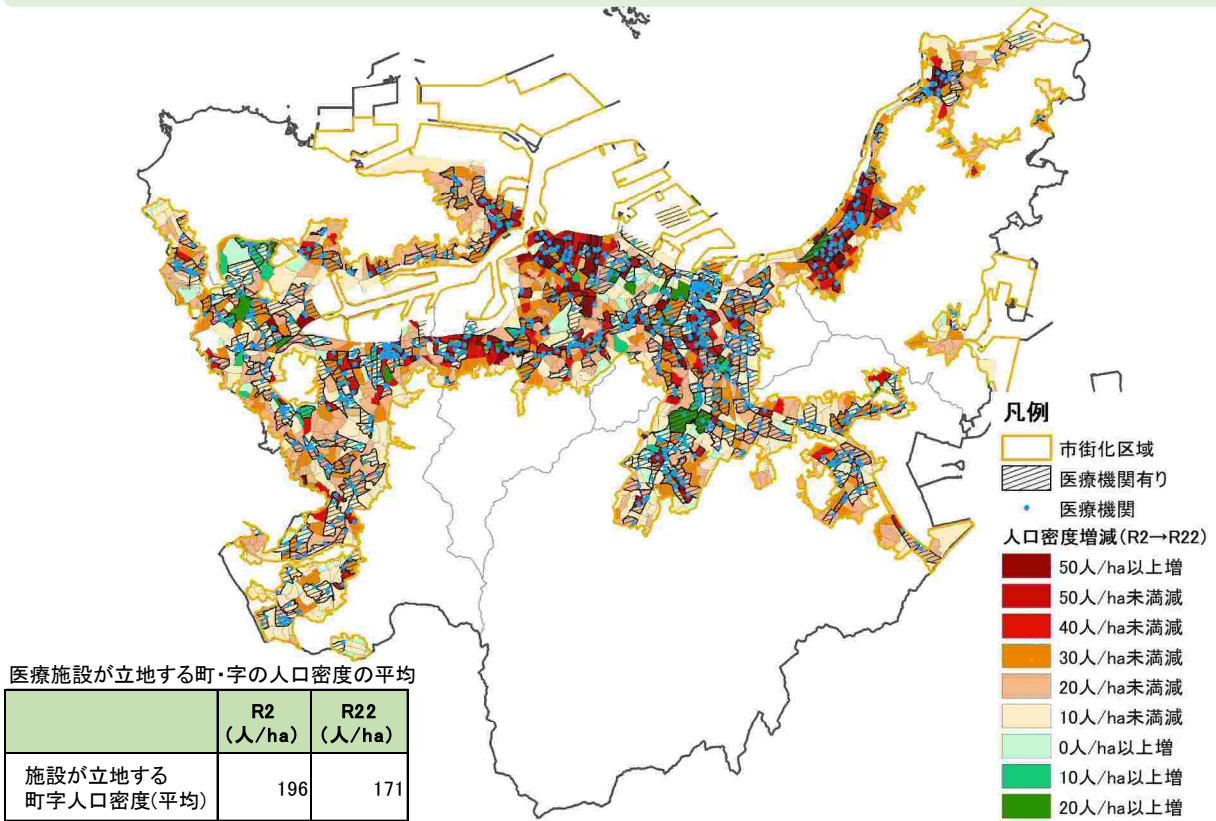


図 医療施設の立地と人口密度増減（令和2年（2020年）⇒令和22年（2040年））

出典：国土交通省「国土数値情報（医療機関（令和2年）」）

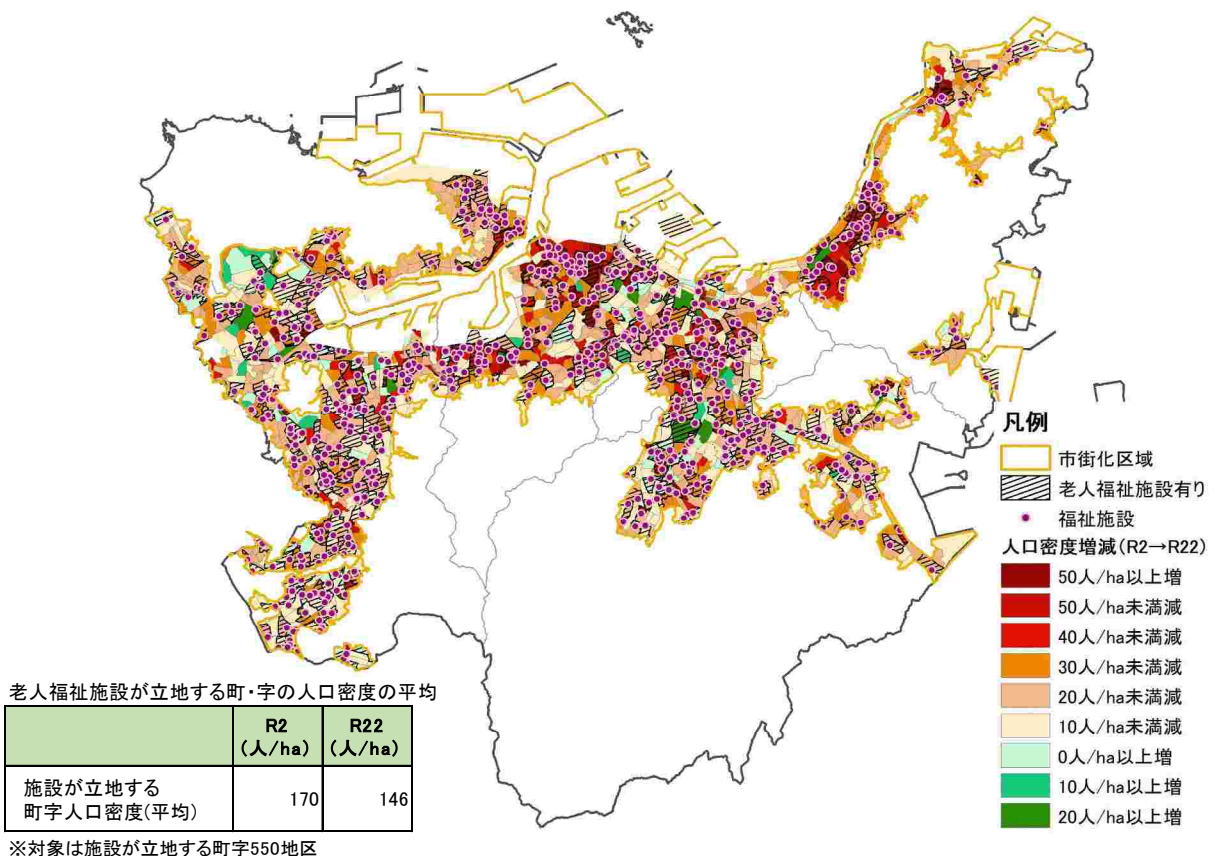


図 老人福祉施設の立地と人口密度増減（令和2年（2020年）⇒令和22年（2040年））

出典：国土交通省「国土数値情報（福祉施設（平成27年）」）

(3) 地形（斜面地）・ハザード地域

- 斜面地には土砂災害警戒区域も多く、高齢化率も高いことから、災害発生時の避難対応など、地域の自助・共助の低下などが懸念されます。
- また、土砂災害警戒区域等に指定されている地域には、将来、人口密度が高いと推計される地区もあり、被災が懸念されます。

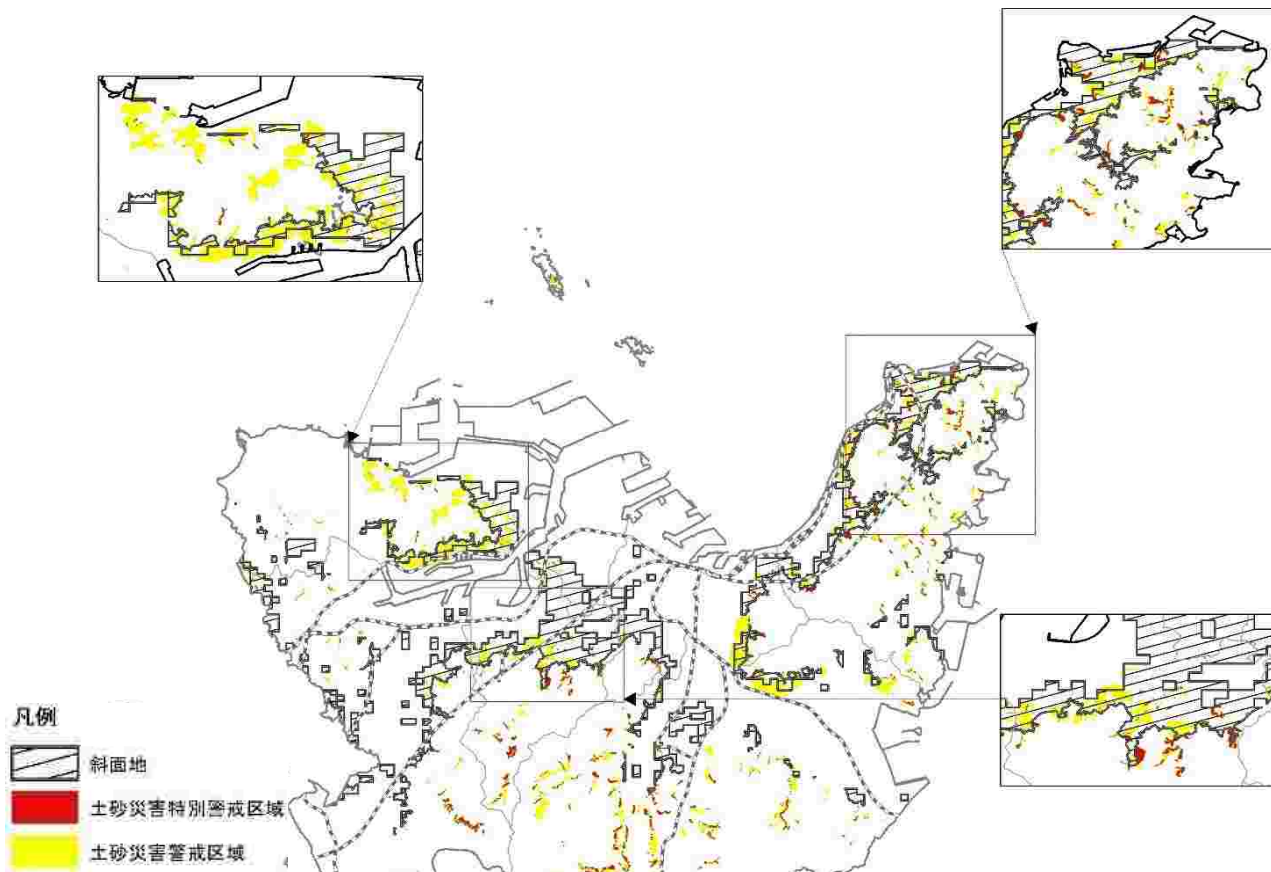


図 斜面地と土砂災害警戒区域等の分布

出典：北九州市「都市計画基礎調査（平成28、29年）」
福岡県「土砂災害警戒区域等」

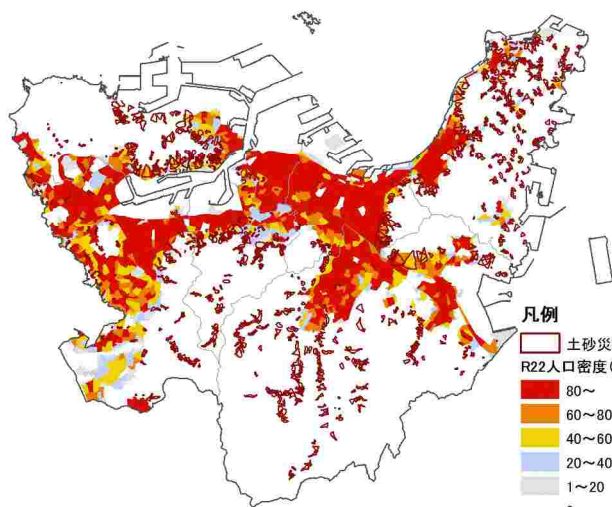


図 令和22年（2040年）人口密度と土砂災害警戒区域等の関係

出典：福岡県「土砂災害警戒区域等」

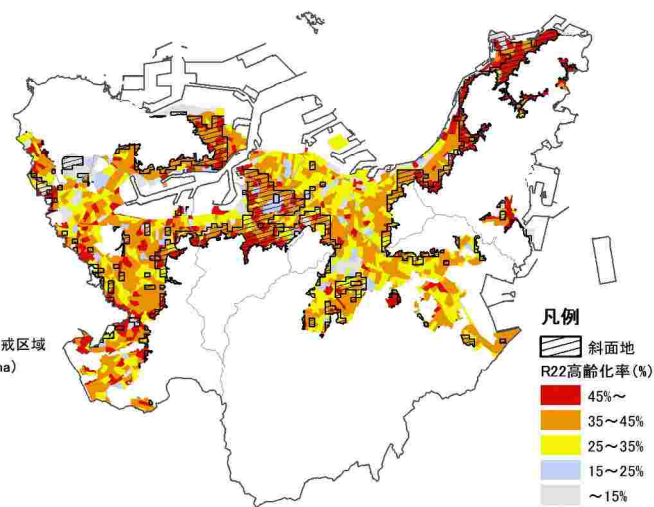


図 令和22年（2040年）高齢化率と斜面地の関係

出典：北九州市「都市計画基礎調査（平成 28、29 年）」